

事業所名

児童発達支援センター ひばり学園

2025年度 支援プログラム

作成日

2025年

2月

15日

沿革 支援方針	1971年に肢体不自由児通園施設「京都市ひばり学園」として開設。2006年に社会福祉法人聖ヨゼフ会が設置者になりました。2013年以降は「児童発達支援センター ひばり学園」に、2024年4月からは中核機能をもつ児童発達支援センターとして活動を始めました。 就学前の乳幼児で、心身の発達の心配な子どもたちが保護者といっしょに通園し、保育をしています。それぞれの通園支援計画に基づき、運動発達・精神発達を促進させるとともに、基本的な生活習慣を身につけることができるよう、家庭と協力して子どもの成長を支援しています。また、保護者の思いに寄り添い、保護者の交流の場となるよう援助します。		
保育目標	子どもたち一人一人の発達に応じた支援計画を立て、その子どもの能力を育てる保育をします。 子どもの発達について、保護者と懇談したり、療法師による勉強会をします。 繰り返し経験し、積み重ねていくことが大切です。		
あそびのテーマ	からだ・リズム・感触の3つのテーマを週替わりで経験します。テーマ毎のいろいろなあそびを通して、子どもの気づき・親の気づきが増え、親子の育ちにつなげていきます。 「からだを動かすあそび」トランポリンやボールプールなど、身体を動かして遊びます。「リズム」歌や楽器でリズムを感じて遊びます。 「感触あそび」いろいろな素材で遊び、さまざまな感触に手で触る経験をします。		
支 援 内 容			
本人 支援	健康・生活	食えること・寝ること・排せつが安定し、続けて登園できるよう、生活リズムを整えられるよう支援します。 手洗いやうがいなどをして、清潔にすることに気づけるよう促します。 着替えをする動作に気づけるよう支援します。	
	運動・感覚	あそびを通して、身体の使い方に気づけるよう支援します。 見ることや聞くこと、香りや味を知ること、いろいろな物に触るなどの経験ができるよう促します。	
	認知・行動	繰り返しの積み重ねから、遊ぶことを楽しんだり喜んだり期待する気持ちが育つよう支援します。 好きなあそびが見つかることで、遊びたいから手をのばすなど、自発的な動きを引き出せるよう促します。	
	言語 コミュニケーション	音や身振り（サイン）などへの気づきから、わかる言葉・使える言葉が増えていくよう支援します。 一人一人に合わせたコミュニケーション手段が見つかるよう支援します。	
	人間関係 社会性	好きなあそびを通して、人に遊んでもらうこと、人と一緒に遊ぶことを喜び楽しめるよう支援します。 家族以外の人も喜びや楽しみを共有できるよう人との関わりを促します。	
家族支援	日常的な相談や年1回の面談から家庭での子どもの姿を知り、子育ての支援をします。家族参加の行事は、家族の中の子どもの姿を知る機会にし、きょうだいや家族の支援を一緒に考えます。	移行支援	保育所・幼稚園等への入園について、その時の子どもの育ちと少し先の育ちを考え、主治医や療法師の助言を得て保護者と一緒に考えます。就園・就学先の見学を受け入れ、安心して移行できるよう支援します。
地域支援・地域連携	併行通園先での活動や環境について、保育士や療法師が支援します。通園先への訪問支援を行います。また、関係機関等との連携を図り、共有した目標をもって子どもと家族の支援を行います。	職員の質の向上	京都市障害者自立支援協議会児童部会、近畿肢体不自由児療育施設連絡協議会等の研修に参加し、地域や他の療育施設との交流を通して質の向上に努めます。
主な行事等	年度始まりのオリエンテーション。クラス参観、運動会（園外）、遠足（園外）、クリスマスウィーク、お別れ会、卒園式。 ひなまつりやこどもの日などの節句。初詣、夏越の祓、ずいき祭りなどの近隣のお祭り。 3ヶ月毎（年4回）の誕生会。		
営業時間	9時 30 分から 15時 30 分まで	送迎実施の有無	なし
利用について	対象児：0歳児から就学前まで 定員：1日12人 通園日・療育の時間：月～金曜日・午前10時～午後3時	給食	管理栄養士が栄養面・アレルギー対応の指導相談に応じ、できるだけ摂食状況に合った食事形態で提供します。
健康管理	看護師と共に心身の健康状態の子チェックを行い、必要なときは受診のアドバイスをします。主治医や療法師や関係機関との連携をはかり、児童への指導が円滑に、効果的になされるよう援助します。	診察・健診 身体測定	小児科主治医の診察：年3回、歯科健診：年1回、発達テストなどがあります。 身長体重の測定は毎月、頭囲・胸囲の測定は年4回行います。